

信頼される
企業である
ために

コーポレート・ガバナンス

経営の透明性を高め、すべてのステークホルダーから
信頼される企業をめざします。

コーポレートガバナンスポリシー

宝ホールディングスでは、コーポレートガバナンスに対する基本的な考え方や取り組み状況について「宝ホールディングス コーポレートガバナンスポリシー」を定め、株主・投資家をはじめとするステークホルダーとの信頼関係構築や、コーポレートガバナンス体制の整備に努めています。

基本的な考え方

宝グループは、「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて 人間の健康的な暮らしと 生きいきとした社会づくりに貢献します」という企業理念のもと、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオ技術の革新を通じて、食生活や生活文化、ライフサイエンスにおける新たな可能性を探求し、新たな価値を創造し続けることによって社会への貢献を果たしています。

2011年に公表した10年間の長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」では、酒類・調味料事業を基盤とし、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長事業を有する独自の強固な事業ポートフォリオをベースとし、国内はもとより海外においても事業を伸ばし、さらに環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立することをめざしています。また、現在取り組んでいる長期経営ビジョンの具体的な実行計画である3カ年の「宝グループ中期経営計画2016」では、各事業ごとの売上高や営業利益の業績目標に加え、

- ・松竹梅白壁蔵「瀧」を中心とした清酒売上高の拡大
 - ・欧米をはじめとする世界での日本食材卸網の構築
 - ・バイオ医薬品などの製造開発支援サービス(CDMO事業)の拡大
 - ・遺伝子治療・細胞医療における臨床開発の推進
- という、重点4分野に積極的な投資を行う方針を打ち出す一方で、資本効率を意識した適切な株主還元方針として、営業利益をベースとした「みなし配当性向30%*」を目安とした配当と、状況に応じた機動的な自己株式取得の実施を公表しています。

このように、長期経営ビジョンと中期経営計画を着実に実行し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を遂げるためには、株主、顧客、従業員、債権者、地域社会などのステークホルダーの立場を踏まえた上で、透明・公正か

つ迅速・果敢な意思決定を行うためのコーポレートガバナンス体制が必要であり、「コーポレートガバナンスポリシー」に定める具体的方針に則って取り組んでまいります。

*みなし配当性向=配当総額/(連結営業利益×(1-法定実効税率))÷30%

株主・投資家との信頼関係構築

積極的なコミュニケーション

宝ホールディングスは上場企業として、株主および投資家の皆様に正確かつタイムリーに情報開示するための社内体制を整え、経営の透明性を維持しています。

毎年5月と11月に機関投資家・証券アナリスト向けの決算説明会を開催するほか、年間を通じた個別の面談などを通じ、双方向のコミュニケーションに努めています。また、個人投資家に向けては、年数回の会社説明会を開催しています。

このほか、宝ホールディングスのウェブサイトには「IR情報」ページを設けています。最新の開示資料や財務情報、説明会資料に加え、宝グループの事業内容や経営計画などに関する情報も掲載し、グループについての理解を深めていただけるよう工夫しています。



「IR情報」ページ

株主総会の活性化に向けて

宝ホールディングスでは、株主総会が株主との建設的な対話の場でもあるとの認識のもと、株主総会における権利行使にかかる適切な環境整備を行うこととしています。

株主総会において株主が適切な判断を行えるよう、株主総会招集通知の記載内容の充実と早期発送に努めるとともに、招集通知に記載する情報をその発送より前にTDnetや当社ウェブサイトなどで電子的に公表しています。

また、議決権行使をしやすい環境づくりの一環として、インターネットによる議決権の電子行使を可能とし、あわせて議決権電子行使プラットフォームを利用しています。

コーポレートガバナンス体制

持株会社がグループの業務執行を監督

宝グループは、持株会社宝ホールディングスと、宝酒造、タカラバイオ、宝ヘルスケアなどのグループ会社45社（2016年3月31日現在）で構成されており、宝ホールディングスは、グループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、持株会社として各社の業務執行を監督するため、「グループ会社管理規程」を制定し、以下の体制で業務を執行、監査・監督しています。

① 監査役設置会社として、監査役は、取締役会などの重要

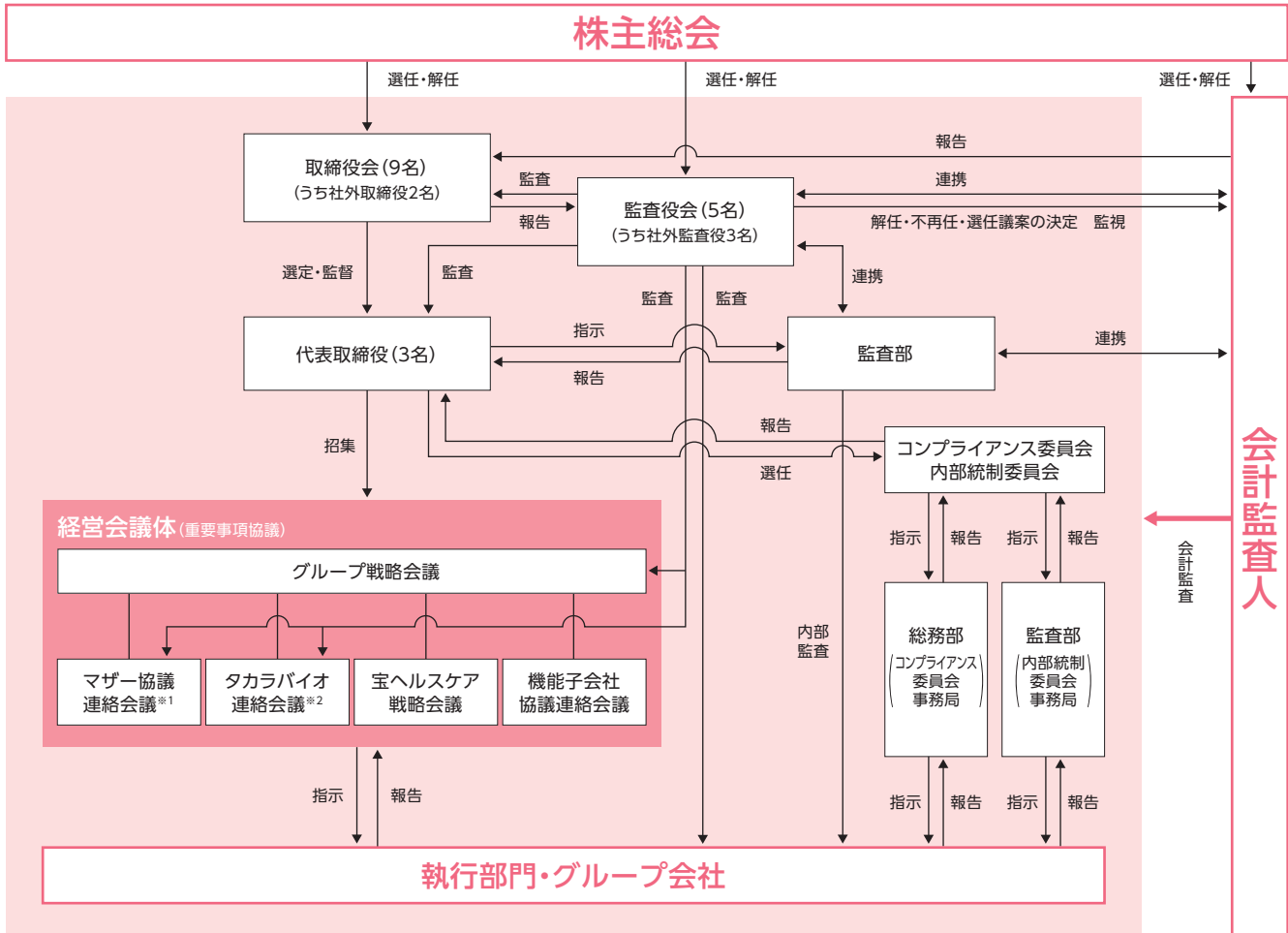
会議への出席や業務・財産と重要書類の調査を通じて、取締役の職務執行を監査しています。また、株主を含むすべてのステークホルダーの視点に立脚する独立性の高い社外取締役が、監査役会と連携して業務執行の監査・監督に関与することで、経営に対する監督機能を強化しています。

② グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間の報告を目的に、「グループ戦略会議」、「マザー協議連絡会議」、「タカラバイオ連絡会議」、「宝ヘルスケア戦略会議」、「機能子会社協議連絡会議」を開催しています。

 A: IR情報

● コーポレート・ガバナンス体制

(2016年6月29日現在)



※1 マザー協議連絡会議は、宝酒造株式会社の取締役会決議事項の事前協議や業績・活動状況などの報告を目的としたものです。

※2 タカラバイオ連絡会議は、タカラバイオ株式会社の業績・活動状況などの報告を目的としたものであり、同社の取締役会決議事項の事前承認などは求めておらず、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

信頼される企業であるために